三田

芝三本榎、芝伊皿子町と分て唱ふ、車町までをおしなべて芝といひ、又增上寺の表門芝に出たれば、芝の增上寺と稱するより、切通し土器町邊までも芝と唱ふれど、是は全く增上寺の地名よりおしうつりしに過べからず、其實は飯倉もしくは櫻田に屬せし地なるべし、

〔御府內備考九十九三田〕三田は古代の郷名なり、和名抄に、武藏國荏原郡御田と載せ、及日本總國風土記に、武藏國荏原郡御田郷、或多箕公穀三百六十七束、假粟田三十九丸、貢松竹蕨等、又有諸禽充大膳或木工寮と記すもの是なり、○中略又御田を三田と書改めしも古き事にや、正保改の國圖、及郷帳とも、既に三田の字を用ひたり、○中略今三田と稱する地域、東は大やう芝に隣り、たゞ南よりの方のみ少しく高輪に交わり、西は新川を境として麻布に並び、川を隔て少しく飛地ある事は、既に麻布の條に辨ず、南は白金に續き、北は赤羽川に限れり、その內在方分に屬する年貢地も少しくあれど、多くは抱地と成りて、屋鋪々々の匝込となれり、此餘三田臺と稱して、高輪白金境に飛地あり、又白金村內にもわづかなる飛地ありて、三田老松町といふ、

高輪

〔御府內備考一百六高輪〕高輪は高き繩手と云の下略なりしを、後に文字を書改めしなるべし、地名に何繩手と云もの、は、郡中大森村內にさは繩手と云に名あり、是北條役帳に、六郷殿三貫四百文六郷內に花和と載たる地なりと云類あればなり、此邊町と成しは古くよりの事にて、正保の郷帳にも、上高輪町、下高輪町とみゆ、元祿改の郷帳にも、玄か記たり、今は上高輪町を變名して芝田町と稱し、車町、三本榎、伊皿子町も、おしなべて芝と唱へ、是町方にての通稱なり、郷帳等には、今も上高輪町と書す、下高輪町のみ舊名に從へり、

〔江戶名所圖會三〕高輪大木戶　寶永七年庚寅、新に海道の左右に石垣を築せられ、高札場となし給ふ、其初は同所田町四丁目の三辻にあり、故に、今も彼地を元札の辻と唱ふ、此地は江戶の喉口なればなり、田町より品川迄の間にして、海岸なり、

自銀

〔新編江戶志七下〕白銀

相傳て云、往古此所に白銀長者といふあり、代々富饒にして住す、ゆへに爰を白銀と云よし、北條